

第1 はじめに



2012年度は、東日本大震災の影響を大きく残しながらのスタートとなりました。5月には日本のすべての原子力発電所が運転を停止し、その後、大飯原子力発電所の再稼働問題が浮上しました。被災地では今も行方不明者の捜索が続けられ、一方でがれきの処理や放射能除染など復興を阻害する課題も山積しています。

我が国の領土をめぐる中国や韓国と激しく対立する一方で、国内では政治課題が解決できない状況が続いています。フランス、ロシアのトップが入れ替わり、これからアメリカ、中国のトップが決まります。その意味で今年度は歴史的にも大きな転換点を迎える年となりそうです。

こうした混沌とする世界情勢・国内情勢を鑑みて、テレビメディアに課せられた大きな役割を再認識しています。地上波放送を取り巻く環境は大きく変わりつつありますが、私たちは関西の放送サービスエリアを最重視して、メディアの役割を果たしていく所存です。私たちは「エリアで最も必要とされるコンテンツ・メーカーに」「ライフラインとして信頼されるテレビ局に」を経営ビジョンとして、関西の風土や文化に根ざしたコンテンツを作り続けたいと考えています。それが、社会の皆様に対する私たちの最大の責務であると認識しております。

この「コンプライアンス・CSRレポート」は、このような私たちの取り組みを、視聴者の皆様にご覧いただき、ご理解していただくために、半年間の活動状況をまとめたものです。

代表取締役社長 福井澄郎

第2 番組制作についての取り組み

火曜22時は、関西テレビが全国ネットとして手掛けているドラマ枠です。4月から6月には、自社制作による「37歳で医者になった僕～研修医純情物語」、7月から9月は「GTO」を放送しました。「GTO」はTEEN世代の圧倒的な支持を得て、10月2日に2時間半のスペシャルドラマを放送しました。

昨年3月に発生した東日本大震災、福島第一原発事故に端を発したエネルギー問題は、原発依存率の高い関西地方の夏のエネルギー問題として大きくクローズアップされました。ニュース番組では、大飯原発の3号機4号機の再稼働問題や計画停電、原発を抱える地元福井の人々、そして夏の電力需要の検証など様々な視点からエネルギー問題をとらえ、分かりやすく視聴者の皆様にお届けしました。また地域に密着したテレビ局として、「文楽のゆくえ～『橋下改革』と世界遺産～」 「船乗りたちの戦争～徴用された民間船の記録～」 「ずっと笑顔で生きてゆく～和歌山県那智勝浦町 豪雨災害から一年～」の3本のドキュメンタリーを制作しました。



「文楽のゆくえ～『橋下改革』と世界遺産～」



「船乗りたちの戦争～徴用された民間船の記録～」



「ずっと笑顔で生きてゆく～和歌山県那智勝浦町 豪雨災害から一年～」

その地域密着番組では、月曜から金曜までの帯番組「よ～いドン！」が、8月第3週の平均視聴率が11.7%と、これまでの最高をマークし、多くの視聴者の支持を得ています。また、関西のお笑い文化の歴史を継承する「上方漫才大賞」も47回目を迎えました。関西お笑い文化の重鎮、桂三枝さんが「六代 桂文枝」を襲名されたのを記念して、文枝さんの人となり掘り下げ、関西お笑い文化の一端を紹介する単発番組「桂三枝とTVの時代～六代文枝 偉業伝説～」を制作しました。

スポーツでは、阪神タイガースとオリックスバファローズを2月・3月のオープン戦を含め9月末までで20試合を放送しました。残念ながら両チームとも成績は振るいませんでしたが、視聴者の皆様に見やすい画面、分かりやすい内容を心がけ制作しました。2012年度上期の大イベントはロンドンオリンピックでした。開幕前の7月7日には「今だから語る これが世界の祭典だ！」を放送。開催期間中は、キャスターを現地に派遣して独自の視点から「スーパーニュースアンカー」で中継映像を届けました。終了直後の8月15日深夜には、女子マラソン代表選手に密着し、惨敗の原因を探ったドキュメンタリー「ロンドンの敗北を忘れない～日本女子マラソンに明日はあるのか～」、さらにオリンピックで活躍した女子選手の本音に迫るトーク番組「ロンドン大感謝祭！アスリート女子会SP！」を放送しました。

こうした地道な番組制作は、様々な方面で評価されています。日本民間放送連盟賞で

は、30代の独身女性の喜怒哀楽を描いたドラマ「ピロートーク〜ベッドの思惑」(2012.3.22放送)がテレビドラマ部門の優秀賞、トップアスリートが競技の垣根を越えて戦う「THE GOLDEN BATTLE」(2011.12.11放送)がテレビエンターテインメント部門で優秀賞を受賞しました。



▲「ピロートーク〜ベッドの思惑」



▲「THE GOLDEN BATTLE」

また昨年7月に「スーパーニュースアンカー」で放送した「余命2年の動物園長」が2012年ABU賞(アジア太平洋放送連合)のニュース部門で最優秀賞に選ばれ、同部門で2年連続の最優秀賞の受賞となったほか、昨年2月に放送したドキュメンタリー「三人の酒蔵」が日本映画テレビ技術協会の映像技術賞撮影部門で映像技術奨励賞に選ばれています。また昨年11月に放送しました「ゆっち、25歳」が上海テレビ祭ベストドキュメンタリー部門に入賞しました。



▲「余命2年の動物園長」



▲「ゆっち、25歳」

その他、民放連盟賞の技術部門では「ヘリコプターの空撮カメラ追尾システム・伝送プロフィール表示システム」が優秀賞を受賞しました。

番組制作に欠かせないのが「テレビ人としての倫理」です。関西テレビでは、放送倫理会議を毎月開催し、番組を含め放送全般の倫理に関する課題を討議しています。また外部の有識者からなる「オンブズ・カンテレ委員会」からは、第三者の視点から番組などを中心に、広く論評、注意喚起、提言を頂いているほか、番組審議会の委員からも貴重なご意見を承っています。

視聴者に皆様からのご意見は、視聴者情報部が承っています。この半年間で、問い合わせが17,120件、苦情が5,954件、要望や感想が12,174件、その他3,553件いただき、番組制作に反映できるよう迅速に制作現場に伝えています。

第3 ライフラインとしての取り組み

東日本大震災は、テレビの必要性が改めて見直されるとともに、私たちもテレビの役割を考え直す契機になりました。当社を含むフジテレビ系列局では、これまでVTR番組や再放送が続いていた午後の時間帯を大きな課題と捉えていました。そこで4月からは、午後の時間帯に全国ネットの生情報番組「知りたがり」を編成し、その日に起きた事件事故などについて全国的な対応ができるようにしました。また、緊急災害時の放送対応に関しても引き続き検証を行い、フジテレビとの連絡回線の強化や、フジテレビが被災した場合を想定し、当社からの緊急特別番組の送出ができるように防災会議を通じて確認作業を行っています。

また、福島第一原発事故による被害が続く福島県への応援を、FNN（フジニュースネットワーク）応援の一環として行っています。取材クルーを福島に派遣し、ローカル放送の取材応援のほか、全国ネットでも復興の様子などの現況を伝えています。また、関西と東北をつなぐ絆に焦点を当て、関西に避難した人たちのその後を継続取材して特集として取り上げています。

データ放送事業では、災害情報の速報性を高めたり、簡単に情報にアクセスできるよう工夫を施しました。トップ画面にタブ形式を取り入れ、各種気象・災害情報へのアクセスが容易となり、それらは登録した郵便番号エリアの気象・災害情報に連動させています。また津波が発生した時には、概要を割り込み表示しています。さらに土砂災害警戒情報、竜巻注意情報、記録的短時間大雨情報の表示を新たに加えました。

放送の維持、安全にも取り組んでいます。当社が被災した際にも放送を継続できるように、生駒送信所に予備アンテナを設置しました。また非常用発電機の燃料タンクを増設し、電力供給が止まっても7日間は放送できる体制を整えました。

第4 メディアリテラシー推進活動への取り組み

当社のメディアリテラシー推進活動は、本格的に取り組む始めて5年になります。

「出前授業」は、青少年へのメディアリテラシー教育の一環として行っていて、ほぼ1ヵ月に1校のペースで社員が学校を訪れています。中学生や高校生と被害者報道の必要性を意見交換したり、相手に伝わる話し方を小学生に講義したりしています。また「中高生のための映像作品制作支援プログラム」では、高校の放送部による映像制作を支援することになり、撮影機材や編集用パソコン一式を対象校に寄付しました。関西大学社会学部との間で進めてきた連携講座「マスコミ制作実習」も4年目となり、今年度上半期は東日本大震災に関連して、「今、私たちができること」をテーマに30秒のメッセージビデオの制作を行いました。こうした活動と並行して「テレビのミカタ」を毎月制作放送しており、メディアリテラシーの実践活動と効果的に連携させ成果を上げるように工夫を続けています。



▲出前授業（「報道と人権」についての講義の様子）



▲（「相手に伝える」話し方についての講義の様子）

これらの活動をイベントとして実施したのが、3回目となる「オープンスクール@カンテ〜レ」です。当社スタジオ「なんでもアリーナ」では、テレビ局ならではの公開授業を行いました。公開空間「アトリウム」では、ハイスピードカメラ体験コーナーや、テレビ中継車の特別公開などに約 1700 人の方が来場され、「番組制作の過程がわかり、物事の見方がかわるきっかけになった」などの感想がありました。



▲「オープンスクール@カンテ〜レ」での公開授業の様子



（写真左）1限目 （写真右）3限目

第5 社会的活動への取り組み

東日本大震災の被災地は、いまだ復興に至っていません。当社では、様々な場面において、被災地支援を継続しています。毎年、開いている「アナウンサー朗読会」では、チャリティ募金箱を設置して、来場された方々からのお気持ちをFNSチャリティ基金に贈っています。また、アナウンサー達による本社前での東日本大震災への街頭募金活動は、現在も引き続き行っています。



その他、万博公園で行われている大規模市民イベント「ロハスフェスタ」に本年度も後援参加し、4月のイベントでは東日本大震災FNS緊急募金およびFNSチャリティーキャンペーンの募金活動を行いました。

5月の「ダイヤモンドカップゴルフ 2012」では、選手会・(社)日本ゴルフツアー機構協力のもと、チャリティオークションやチャリティバザーを開催し、各所に募金箱を設置しました。またジュニアゴルファー育成活動も継続しており、日本ゴルフ協会に助成金やジュニアオープンゴルフ選手権遠征費用も寄贈しています。

第6 その他、地域活動を含めた取り組み

イベント事業は、地元関西を中心に皆様に楽しんでいただけるように、数多くの演劇・ミュージカル・コンサート・展覧会などを開催しました。中でも「ツタンカーメン展~黄金の秘宝と少年王の真実~」は、長い年月を経ても変わらないエジプトの秘宝の魅力を求めて、総来場者数が93万3,130人を数え、関西で開催された美術展の中で史上2位という記録となりました。その他にも、劇団新感線「シレンとラギ」、三谷幸喜演出「桜の園」、ミュージカル「エリザベート」などが多くの皆様の支持を得ることが出来ました。また地域文化への貢献で長く愛されているメセナイイベント「3000人の吹奏楽」は、今年も6月に京セラドーム大阪で開催し、多くの方にご賛同いただきました。

映画事業では、現在、関西テレビ開局55周年記念作品「県庁おもてなし課」に取り組んでおり、来年5月の公開を目指しています。

また人気番組「よ〜いドン！」に関連して、阪神百貨店で催事を行いました。お祭り感覚で「立ち食いコーナー」を設けるなど新企画も多数あり、連日一万数千人のお客様にお越しいただきました。情報番組「ハピくるっ！」では、視聴者還元イベント「ハピくるっ！夏祭り」を実施しました。ブース企画や出演者による無料ミニコンサート、出張水族館なども展開して、親子連れを中心とした視聴者の方楽しんでいただきました。

第7 終わりに

最後までお読みいただき、ありがとうございます。

私たちは2007年1月の「発掘！あるある大事典Ⅱ」のねつ造問題をきっかけに、企業活動を広く公開してまいりました。今回のレポートは、2012年4月から9月に至る半年間の活動について執筆したものです。このレポートで、当社を少しでも多くご理解いただければ幸いです。

私たちは、自主自立の精神で番組を制作、放送し、視聴者の皆様から信頼される放送局を目指しています。「エリアで最も必要とされるコンテンツ・メーカー」「ライフラインとして信頼されるテレビ局」をめざし、今後も事業運営に当たってまいります。

当社は、来年55周年を迎えます。55年の長きにわたって当社が活動を続けてこられたのも、視聴者の皆様の温かいご支援があったからこそです。視聴者の皆様には、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。